



意味ばかりを忠實に表現する事に墮する爲に、人間が機械的に、しかも薄つべらに説明的になり易く、如何にも役者がある役を演じてゐますといふ様にか見えないことになります。その役の生活がにじみ出てゐない限り、芝居がうそになり、つくりものになる。どんなに喜怒哀樂を完全に出そうが、日常會話をそれらしく語らうが、うそはうそで、それは眞の藝術ではあり得ない。脚本に文字で現はされた言葉以外の心理、感情を把握して、その言葉がどんな内的な状態に於て云はれてゐるかといふ事を知り、その中から物を云へば自然、どんな動きの中で、どんな云ひ方をしなければならぬかといふ事が規定されると思ふ。

だから俳優は、豊富な想像力を持つて、扮した役の持つてあらう生活を空想し、イメージを浮かべてしつかりそれを捕え表現してゆかなければならぬ。

それが出来た時初めて、寫實の芝居は一寸出来るといふ事になるのだと私は思ふのです。

文樂の 人形

中村 翫右衛門

いつも文樂の人形を拜見して感じる事は、如何にもその役々の人柄が、その人形の作りの上に適材適所に現はれてゐる事で、人形を使ふ方の心持ちを實に好く、物言はぬ動かぬ人形がコントロールしてゐると云ふ事です。

世の中が段々複雑になり、人の神経も細くなり、従つて一舉手一投足もその神経が物を言ふ時、泰然として人形は必要以上の神経の動きを見せず、昔の太い神経の動きの様に、見てゐる者に大まかさを感ぜしめ、人形ならではの出来得ぬ曲線美を示してくれます。

その複雑さが象徴化されて單純に表現される所は俳優の現代的神経から割出される表現の上のうるさをしのいで、生き／＼とクラシックを感じさせてくれます。



厳しい修行、外の空気あまりに流通しない處、何んとなく薄暗く、然し清淨にそうした所に置かれて、人形はグロ味と共に主體的な感じを強く受ける様に私には思へるのです。

物言はぬ人形が黙々としてゐる内に、淨瑠璃は唇に餘韻をふくんで、無言の中にかへつて深い哀愁を味へる様に思へるのです。

物言ひ動く人間である爲に、かへつて過ぎたるは及ばざる結果の近代的神経が動作にあらはれ目まぐるしい、わづらはしさを禁じ得ぬ場合が往々出ます自分などもよくこのことを感じながら押さへるのに困難します。

演劇も社會の動きと共にそこに生きる人間を表現してくるとすれば、社會意識を持ち、社會の進歩に役立つ自己犠牲的生活が要望されるは最早今日では常識となつてゐますが、社會人をその儘舞臺へ寫し出すのではなく、その本質を見極め舞臺的眞實へまで高めるとすれば、そこに新しい象徴化、單純化が生れて來ることも當然でせう。

そうした點からも、又人形であるが爲に生き

と感じられ、生きた人間であるが爲にかへつて噓らしく見える點なども、吾々俳優に取つて又一つの教訓とも思へます。



老女形 「片はづし物」に用ひる老けた女形です。この寫眞は「先代萩」の政岡、ネムリ（眼の開閉）の仕掛になつてをります。戦災でこれも焼失してしまひました。

劇書 紹介

素人演劇 (大山功著) 東北疎開中の著者の勞作、素人演劇に關する類書は多いが、とかく瑣末な演技指導に重點を置くなかに、本著は先づその正しい理論づけの上に實際指導を系統立てようとしてゐるところ、十分信頼がおける。(三十圓、東京都板橋區板橋町四、摩耶書房)